

【目次】

1. 中野寛成元民社党書記長を招き政治・社会運動史研究会を開く、3月29日！
2. 日本労働会館2015年度第4回理事会を開く、3月25日！
3. 連合旗の寄贈を受け展示しました、3月19日！
4. 連載「日本労働会館物語」第59回—友愛会創立者の一人、梶井與雄—！

1. 中野寛成元民社党書記長を招き政治・社会運動史研究会を開く、3月29日！



友愛労働歴史館は3月29日（火）午前、第7回政治・社会運動史研究会を開催しました。同研究会は、友愛労働歴史館の調査・研究活動の一環として設置したもので、「日本の民主的社会主義政党、並びにそれと関連する社会運動史の調査・研究」を目的としています。

第7回研究会は元民社党書記長・中野寛成氏を報告者に同日10:30～12:00、当歴史館研修室において、共通テーマ「民社党時代を語る」で開催しました。研究会は原則、非公開ですが、友愛労働歴史館や旧民社党、旧同盟の関係者らが参加しました。

研究会では司会者から予め提出されていた質問項目に基づき中野寛成氏が1時間余に亘って報告を行い、その後に質疑・意見交換を行いました。主な質問項目は、①政治活動への参加動機、特に、民社学研、民社青連について、②大阪府連での活動、西尾末広と西村栄一の関係と思い出、③佐々木良作、春日一幸両委員長との関係、④同盟と党との関係、その長所と短所、⑤民社党の長所と短所（他党との違い）、⑥新進党解党のとき民社系はなぜ一本化できなかったか、⑦小選挙区制、政党助成金制度の長所と短所、⑧創憲会議の提案と現在の状況、などでした。

中野寛成氏は、昭和15年長崎生まれで衆議院議員当選11回。元民社党政審会長、書記長。新進党政審会長、新党友愛代表、民主党幹事長、衆議院副議長、国家公安委員長、拉致問題担当大臣などを歴任しています。

2. 日本労働会館2015年度第4回理事会開く、3月25日！



（一財）日本労働会館（友愛労働歴史館と労使関係研究協会、ホテル三田会館の運営母体）は3月25日午前、友愛労働歴史館研修室で2015年度第4回理事会を開き、2015年12月から2016年3月までの事業報告（①友愛労働歴史館、②労使関係研究協会、③ホテル三田会館の各事業報告）と、④2015年度決算予測をそれぞれ確認しました。

また、2016年度事業計画として①2016年度活動計画概要（案）、②友愛労働歴史館事業計画（案）、③労使関係研究協会事業計画（案）、④ホテル三田会館宿泊事業計画（案）、⑤2016年度収支予算（案）について、それぞれ提案・説明を受け、確認いたしました。その後、役員（監事・理事・評議員）の選任、次回理事会・評議員会の日程などを確認し、閉会いたしました（詳細は略）。

3. 連合旗の寄贈を受け展示しました、3月19日！



友愛労働歴史館はこの程、連合（日本労働組合総連合会）から連合旗2枚（大小）の寄贈を受け、その1枚を常設展「日本労働運動の100年余—友愛会・総同盟（戦前）を中心とする」会場に展示いたしました。

また、当館はこの程、相次いで各種資料の寄贈を受けました。2月18日には友愛会創立者15名の一人である梶井與雄ゆかりの人から、写真や経歴（メモ）などの寄贈を受けました。2月26日には海員組合の土井元組合長ゆかりの人より、関連資料の寄贈を受けました。

また、3月7日には労働組合期成会創立者の一人である城常太郎のゆかりの人から、写真と書籍の寄贈を受け、さらに同日、上條末夫元政策研究フォーラム事務局長から書籍の寄贈を受けました。

4. 連載「日本労働会館物語」第59回—友愛会創立者の一人・梶井與雄—！

今回の「日本労働会館物語」は、大正元年の友愛会創立に参加した梶井與雄です。友愛会は1912（大正元）年8月1日、ユニテリアン教会・惟一館で鈴木文治ら15名により創立されています。

友愛会結成に参加したのは『総同盟50年史』（上巻）によれば、①鈴木文治（統一基督教弘道会幹事）、②岡村寅次郎（昼職）、③高橋秀雄（機械工）、④鈴木吉太郎（塗物工）、⑤山口庄吉（電気工）、⑥板倉定四郎（三田警察署巡查）、⑦伊藤伝蔵（牛乳配達夫）、⑧梶井与雄（梶井與雄。機械工）、⑨森田駿（機械工）、⑩石井輪之助（機械工）、⑪喜多川鉦造（機械工）、⑫野村市太郎（電気工）、⑬酒井義雄（撒水夫）、⑭大栗和七（撒水夫）、⑮宮本精太郎（撒水夫）の15名です。

『暗い谷間の労働運動』（大河内一男・松尾洋著）の「15名の仲間」には、友愛会結成時のことが記述されていますが、鈴木文治以外の14名の経歴、活動などの詳細は不明で、写真も確認できません。

しかし、当歴史館はこのほど友愛会創立メンバーの一人である梶井与雄（梶井與雄。機械工）の写真と経歴（メモ）を入手いたしました。これらは梶井與雄のゆかりの人である森法房氏（山口県在住。

お孫さん）より当歴史館に提供されたものです。



森法房氏の調査によれば梶井與雄（1889～1913年）は広島県出身のクリスチャンで、広島海軍工廠で働いていたようです。同じ職場で働く友人（クリスチャン）の妹・砂田重代と結婚し、上京。その後、機械工として働きながら友愛会創立に参加したものと思われます。梶井はその後、腸結核になり、妻重代の故郷今治に帰り、療養したようですが、大正2（1913）年7月22日に、24歳の若さで亡くなっています。メモには「死亡時に鈴木文治氏の弔金で墓を建てた」との記述もありました。梶井與雄の詳細はまだ不明ですが、森法房氏が現在、資料を整理中であり、今後、明らかになると思われます。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」



発行：友愛労働歴史館 責任者：徳田 孝蔵 担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12 友愛会館 8F TEL050-3473-5325

Eメール yuairedorekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairedorekishikan.com>

惟一館から122年、友愛会から104年